令和4年度　滝川市道徳教育推進事業　実践報告書

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」

～主体的・協働的な学習を通して～

滝 川 市 教 育 委 員 会

滝川市道徳教育研究会議

発　刊　に　あ　た　っ　て

本年度も新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、ソーシャルディスタンスやマスクの着用、消毒の徹底などの感染症対策を講じながら、様々な教育活動の充実に努められてきたことに感謝申し上げます。

さて、「特別の教科　道徳」がスタートし、数年が経とうとしています。各学校においては、日々、道徳の時間の充実に向け、質の高い多様な指導方法等を取り入れる等、研究に取り組んでいることと思います。

本市においては、子どもたちの豊かな心の育成を図るため、平成１９年度から２年間は文部科学省の指定を受け、平成２１年度からは、市独自に「道徳教育推進事業」を立ち上げて実践的な研究を推進してきたところです。

本年度からは、これまでの研究成果を引き続き「深める、広げる」とともに本市の道徳教育の一層の充実を図るため、５か年計画で、道徳教育の要となる「道徳科の授業」に係る実践研究を推進してまいりました。本年度は、５か年研究の２年次となり、２名の先生方による授業実践を通して、特に「道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問」や「子どもの自己評価と教師による評価」について深めることができました。

本報告書には、研究主題に基づいた研究理論・授業実践等、研究の取組の成果が掲載されております。各学校において本書が有効に活用され、子どもたちに、自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心が一層醸成されることを願っております。

終わりになりますが、本研究事業の推進にあたり、ご協力いただきました研究員の先生方、関係各位に心からお礼を申しあげ、発刊にあたってのご挨拶といたします。

令和　５年　３月　　滝川市教育委員会教育長　田　中　嘉　樹

目　　次

発刊にあたって

第１章　研究概要
Ⅰ．研究主題及び主題設定の理由　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
Ⅱ．目指す子ども像
Ⅲ．研究仮説
Ⅳ．研究内容
Ⅴ．研究の全体構造図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
Ⅵ．事業及び研究の進め方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
Ⅶ．研究推進の経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５
Ⅷ．令和４年度　滝川市道徳教育研究会議　名簿

第２章　研究理論
Ⅰ．道徳科授業の質の向上　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
Ⅱ．道徳科における評価の在り方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
Ⅲ．保護者や地域の人材（教材）を活用した指導　・・・・・・・・・・・・・・・１４

第３章　令和４年度授業実践
・滝川市立滝川第二小学校　尾　崎　真　紀　教諭　・・・・・・・・・・・・・１７
・滝川市立東小学校　　板　垣　昭　太　教諭　・・・・・・・・・・・・・・・２０
・各授業実践の反省　～各研究協議より～　・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３

第４章　成果と課題
・令和４年度　滝川市道徳教育推進事業　研究の成果と課題　・・・・・・・・・３１

参考・引用文献　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

研究概要

Ⅰ　研究主題及び主題設定の理由

１　研究主題

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」
～主体的・協働的な学習を通して～

２　研究主題設定の理由

グローバル化や情報化の進展など様々な要因により大きく変化し続ける現代社会において、個人や社会の多様性を尊重しつつ、幅広い知識・教養と柔軟な思考力に基づいて新しい価値を創造したり、他者と協働したりする力が求められている。

とりわけ、道徳科においては、主体的・協働的な学習の中で、多様な道徳的価値観に触れ、異なる考えや道徳的価値観を肯定的に受け入れ、自分の考えを更新し、自分のよりよい生き方を見つめていくことが求められる。

その具現化のためには、「心情理解にとどまったり、わかり切ったことを考えたりする授業」から「自己のよりよい生き方についての考えを深める授業」、つまり「考え、議論する道徳」への転換が重要となってくる。

そこで、本研究では、研究主題を「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」と設定し、児童生徒が道徳的価値を自分ごととして考え、他者と議論することを通して自分のよりよい生き方についての考えを深めていくことができる道徳科を研究することとした。

Ⅱ　目指す子ども像

本研究では、児童生徒に、道徳的価値の理解を自分との関わりで問い直し、多面的・多角的に考え、よりよい生き方について考えを深めようとする見方・考え方を育成する観点から、目指す子ども像を、

「自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」

と設定する。

Ⅲ　研究仮説

上記の「目指す子ども像」を踏まえ、研究仮説を次のように設定した。

「道徳科の授業」において主題に対する問題意識を高め、道徳的価値を自分との関わりで考えられるような発問や言語活動を工夫するとともに、保護者や地域の人材(教材)を活用することにより、自分のよりよい生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心を育むことができるであろう。

Ⅳ　研究内容

児童生徒に「自分の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心」を育むためには、道徳教育の要となる道徳科の授業において、主体的・協働的な学習活動を展開することが必要である。

そのためには、児童生徒の思考を深めたり、広げたりする指導過程の充実を図るとともに、児童生徒・教員・保護者そして地域の人材（教材）や体験活動を意図的・計画的に教育活動に位置づけることが大切である。

そこで、研究の対象を「道徳科の授業」とし、研究内容を次のように設定した。

①道徳科授業の質の向上
②道徳科における評価の在り方
③保護者や地域の人材(教材)を活用した指導の工夫

Ⅴ　研究の全体構造図

【目指す子ども像】

「自分のよりよい生き方についての考えを深め、
主体的に行動しようとする子ども」

【研究主題】

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」
～主体的・協働的な学習を通して～

【研究仮説】

「道徳科の授業」において主題に対する問題意識を高め、道徳的価値を自分との関わりで考えられるような発問や言語活動を工夫するとともに、保護者や地域の人材（教材）を活用することにより、自分の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする心を育むことができるであろう。

【研究内容】

道徳科授業の質の向上	道徳科における評価の在り方	保護者や地域の人材（教材）を活用した指導

Ⅵ　事業及び研究の進め方

１　事業名

滝川市道徳教育推進事業（令和３年度～令和７年度）　※５か年研究２年次

２　事業のねらい

本市が推進してきた「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業（平成１９～２０年度）」・「滝川市道徳教育推進事業（平成２１～令和２年度）」の成果を「広げる・深める」ことを通して、本市における道徳教育の更なる充実に資することをねらいとする。

（１）道徳科授業の質の向上
・自分のよりよい生き方についての自覚を深める指導の工夫（教材の効果的活用を含む）
（２）道徳科における評価の在り方
・子どもによる自己評価と教師による評価
（３）保護者や地域の人材(教材)を活用した指導
・保護者と連携した「子どもの心を耕す」取組の充実
・地域の教育力の積極的な活用（「はーとふる」「きたものがたり」の活用を含む）
（４）研究成果の還流・発信
・実践発表会の実施
・実践資料の各学校への配布（データ）と滝川市教育委員会 HP 掲載による道徳科授業の実践内容に係る保護者や地域に向けた発信

３　事業及び研究の進め方
（１）滝川市道徳教育研究会議の設置
本事業における研究を推進するために、「滝川市道徳教育研究会議」（以下、研究会議）を設置する。
（２）研究会議の構成
研究会議は、市内小・中学校教員９名（小学校６名、中学校３名）と事務局（教育委員会職員）により構成される。
（３）研究会議の活動
①道徳科に係る理論研究を行う。
②授業実践を通して研究仮説の検証を図る。
③５年間で９校の研究授業を実施する。
④実践発表会を開催して研究成果を還流・発信する。また、実践資料を作成し、各学校に配布するとともに、滝川市教育委員会ＨＰにも掲載する。

４　令和５年度研究推進の重点（※令和４年度の成果と課題より）
（１）『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする「発問」の検討
・児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問
（２）道徳科における評価の在り方
・子どもによる自己評価と教師による評価
（３）学校、家庭、地域連携の要となる「特別の教科　道徳」の充実
・「学級通信」や「教科書」等を活用した双方向の情報･意見交流
・外部講師となり得る人材のリスト化(外部講師バンクの作成)

５　児童生徒の変容を把握するための手だて

・滝川市道徳教育研究会議作成「道徳アンケート」の実施
・計画的な児童生徒の観察
・各校の自己点検、自己評価
・感想文、ワークシート
・児童生徒に対するアンケート
・保護者へのアンケート
・自校内はもとより、学校間、校種間を越えた教師の話し合い　など

６　本事業における道徳科の授業公開の実施計画

（１）研究会議による公開授業研究

各研究員が研究理論に基づき公開研究授業を行うことで、研究主題の具現化を図る。

（２）コスモスデー地域一斉参観日における道徳科の授業公開

期　日：令和４年１０月２１日（金）　滝川市地域一斉参観日

市民に向け、市の広報で地域一斉参観日の開催を知らせ、広く授業を公開する。

７　その他

本研究では、小学校、中学校における「特別の教科　道徳」の実施に伴う情報の提供を行う。

Ⅶ　研究推進の経過

【５か年計画２年次】

- 第１回研究会議（令和４年　５月１６日）　研究会議結成、推進計画
- 第２回研究会議（令和４年　６月２１日）　理論研究
- 第３回、第４回研究会議（令和４年　９月～１１月）※書面会議　指導案検討
- 研究授業①（令和４年１０月２８日）　滝川第二小学校
- 研究授業②（令和４年１１月１４日）　東小学校
- 第５回研究会議（令和４年１１月２４日）　研究協議（授業反省）
- 第６回研究会議（令和５年　１月１９日）　研究のまとめ
- 第７回研究会議（令和５年　２月１６日）　実践発表会
- 「令和４年度実践報告書」の発刊（令和５年　３月）

Ⅷ　令和４年度　滝川市道徳教育研究会議　名簿

＜研究員＞

滝川第一小学校	玉　木　明　里	東小学校	板　垣　昭　太
滝川第二小学校	尾　崎　真　紀	江陵中学校	柳　沼　範　江
滝川第三小学校	高　桑　徹　也	明苑中学校	大　前　悠　希
西小学校	新　谷　駿　介	開西中学校	鈴　木　敏　之
江部乙小学校	青　海　周　作		

＜運営者＞

滝川市教育委員会　教育長	田　中　嘉　樹
滝川市教育委員会　教育部指導参事	橋　本　展　晴
滝川市教育委員会　教育総務課係長	神　馬　由　佳
滝川市教育委員会　教育総務課主査	小　西　和　真
滝川市教育委員会　教育総務課主事	関　　佑　斗

研究理論

Ⅰ．道徳科授業の質の向上～『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする「発問」～

①児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問

児童生徒に自己の生き方についての考えを深め、他者とよりよい関係を築きながら行動する心をはぐくむためには、道徳科の授業において児童生徒が他者との関わりを通して、道徳的価値を自分ごととして捉えながら思考する学習活動を展開することが大切である。そうした学習活動を促す上で、「発問」の質を向上させることは欠かせない要素といえる。

ア．（思考の）土台作りの発問

・ねらいとする道徳的価値に関わり学習テーマを設定する（情報を共有する）ための発問

イ．中心発問

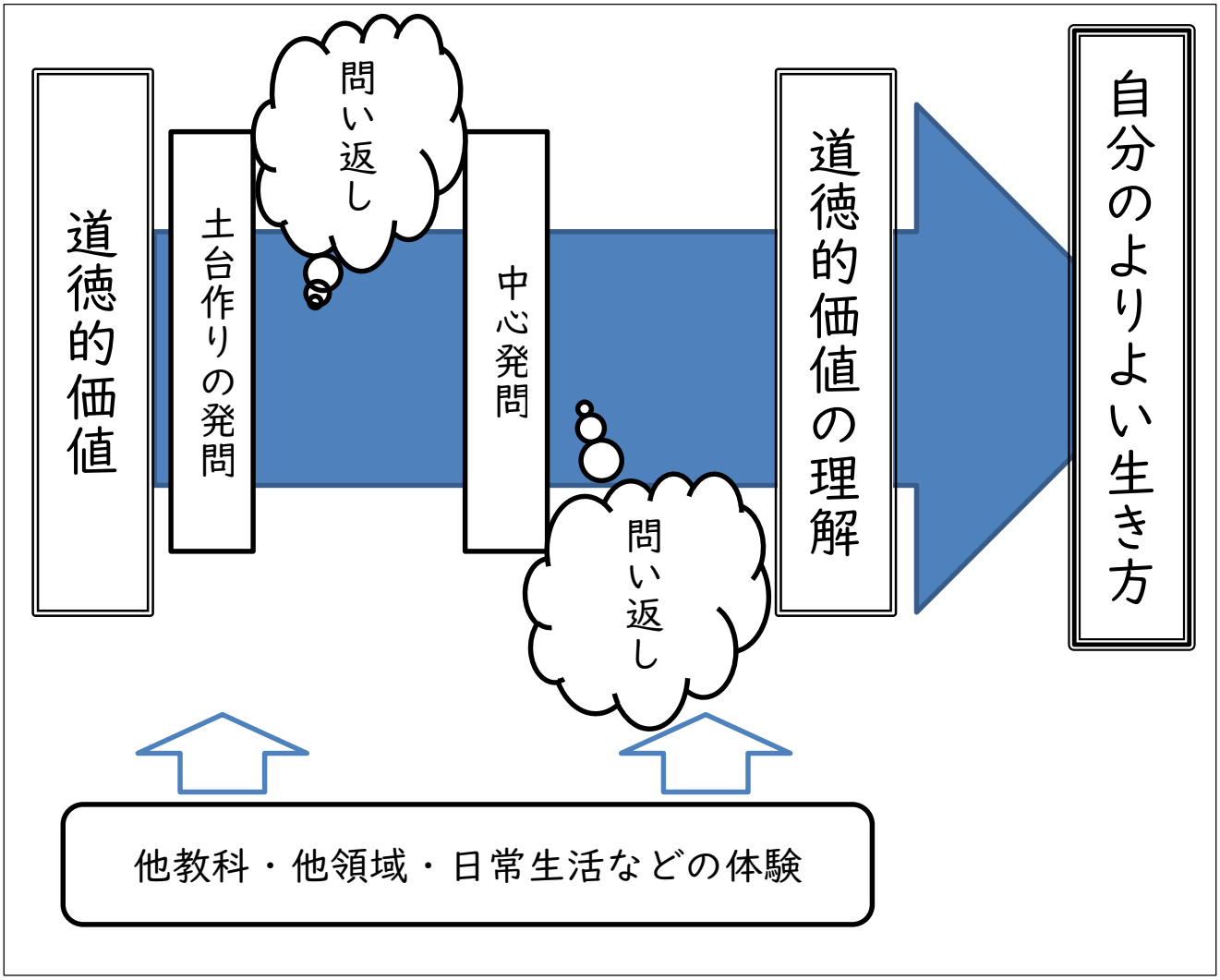
・ねらいとする道徳的価値に迫るために「決め手」となる発問

ウ．問い返し

・中心発問に向かうための発問

・思考を深めるための発問

【１単位時間の授業における発問のイメージ】



【令和４年度実践例】滝川第二小学校
　中心発問を工夫することで、児童が登場人物の置かれた状況に対して、自分事として捉えることができた。また、問い返しを大切にしてきたことで思考の深まりや葛藤がみられた。加えて、ペア，グループ活動による積極的な参加や思考の深まりにつながった。

【令和４年度実践例】東小学校
　児童の目線に立ち、発問を工夫することで、児童の気持ちを揺さぶりながら授業を展開することができた。登場人物の話を自分に置き換えて考えさせたところが、児童の考えをより深めさせたり、自分事として考えさせたりすることにつながった。

参考（令和２年度までの実践より）

１．児童生徒の思考を深める発問の工夫

（１）学習指導過程の特質に応じた発問の工夫

　児童生徒の道徳的価値の理解を基に、道徳性を養うためには、教材の道徳的価値を自らの生き方と関連づけて、考えさせることが必要である。そのためには、学習指導過程の特質を踏まえた教材の活用と合わせた発問の工夫が大切である。

導　入

＜ねらいとする道徳的価値への方向付けの段階＞
- 道徳的価値に意識を向ける。
- 主題に対する興味や関心を高める。
- 学習に向かう雰囲気をつくる。

【　留　意　点　】
- 道徳的価値が自分とかかわりがあるという意識をもたせる。
- 考えるための視点をもたせる。

〇教材提示の工夫
- アンケート調査の結果の提示
- 絵画、写真、実物
- 音声や音楽
- 新聞記事や作文、詩
- 地域素材、実験観察　等

- 興味、関心を喚起させる発問
- 資料に関する発問や説明
- 体験を振り返らせる発問
- 自分を振り返らせる発問　　など

展　開

＜中心的な教材によって道徳的価値についての自覚を深める段階＞

・教材の中の登場人物を通して、道徳的価値を追求し、把握する。
・多様な考え方、感じ方に出会う。
・自分の生活、生き方、在り方を振り返る。

【　留　意　点　】
・多様な考え方、感じ方を引き出すための発問を行う。
・登場人物に同化させ、自分の考え方や感じ方を表現できるようにする。
・自分自身を自覚させるようにする。

○教材提示の工夫
・読み物教材の読み聞かせ
　（スライド等での提示）
・教材の分割提示
・教材の繰り返し提示
・ＶＴＲの活用　　など

○思考を深める工夫
・自分の考えを書く活動
・ペアでの対話
・小集団での話合い
・座席配置の工夫
・スムーズな思考を促す板書の工夫　など

・教材中の事実や場面、状況を問う発問　・登場人物や場面についての感想、判断、意見などを問う発問
・児童生徒の発言や反応を生かした発問　・思考に揺さぶりをかける発問　・人物の心情に迫る発問　など

終　末

＜ねらいとする道徳的価値に対する考えや思いをまとめたり、今後につないだりする段階＞

・道徳的価値を確かめ、整理し、まとめる。

【　留　意　点　】
・望ましい行為への決意表明などは行わないようにする。
・児童一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき確かめることができるような工夫が必要である。

○終末の工夫
・感想の発表　　・教師の説話
・書く活動　　・補助教材の提示　　など

・今日の授業についての感想を問う発問　・自己の変容や気付きについて問う発問
・実践への意欲化を図る発問　　など

（２）「展開」における教材の魅力を引き出す発問の工夫

展開において、児童生徒の思考に揺さぶりをかけたり、人物の心情に迫らせ、教材に含まれている道徳的価値に気づかせたりするためには、教師の発問が重要であり、次の点に留意して発問を構成することが大切である。

① 教材に回答が記述してあることを聞くだけの発問構成をさける。中心発問はねらいとする道徳的価値について考える切り口に関わるものとして設定する。
② 行動の仕方だけを考える発問はさけ、行動の根拠となる心の在り方に関する発問を設定する。
③ 読み物教材において、教材中の副詞や副詞句に留意して発問を構成する。行動は動詞で表現されるが、内面的な心の動きを表現するのは副詞や副詞句である。

例）下線の部分に注目して、ねらいにせまる発問をする
・・・・夕焼けの光の中で、祖母の背中は<u>幾分小さくなった</u>ように見えた。
発問「祖母の背中が『幾分小さくなったように』見えたのは、主人公の心にどのような思いがあったためだろう？」

道徳的価値の自覚を深める「展開」における発問例

1　展開前段～中心教材を通して価値を追求させる段階～	
ア　道徳的心情を問う発問	「～の場面での主人公は、どんな気持ちですか？」
	「～の時、主人公はどう感じましたか？」
	「主人公の心は、どうなりましたか？」
イ　道徳的判断力を問う発問	「主人公は、そのことをどう考えましたか？」
	「主人公は、どんなことがわかりましたか？」
	「主人公は、どちらを選ぼうとしたと思いますか？」
ウ　道徳的態度を問う発問	「主人公は、どんな生活をめざしましたか？」
	「主人公は、どんなことを心がけていますか？」
2　展開後段～価値を主体的に自覚させる段階	
ア　欠けていた面に目を向けさせる発問	「今までの自分の～に対する考え方で足りなかったと思うことはありますか？」
イ　直接経験から学ばせる発問	「～したとき、自分も悩んだり、迷ったりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
ウ　間接経験から学ばせる発問	「～について、今までに人から聞いたり、本で読んだりしたことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
エ　プラスやマイナスの経験を引き出す発問	「～について、今までにできたことや、できなかったことはありませんでしたか？また、そのことを今、どう思いますか？」
オ　主人公と比較して内省させる発問	「主人公と自分を比べて、違ったことや、新しく気が付いたことがありますか？」
カ　先人の行いから学ぶ発問	「～から私たちが学ぶことは、どんなことですか？また、それを生かすには、どんな心がけが大切だと思いますか？」

Ⅱ．道徳科における評価の在り方

①子どもによる自己評価と教師による評価

子ども自身による評価、子ども同士による評価、教師による評価等、様々な方法で、子どもの自己評価を促し、学びを意味付けしたり、学んだことを自分の生活や行動につなげたりすることが重要である。

評価する対象は、学んだ内容、学び方、学びの道筋等、自分の学びについての様々な事柄が考えられる。

このように、評価に係る方法（どのように）や対象（何を）、タイミング（いつ、どの場面で）は様々であるが、子どもの発達段階や進捗状況に応じて、教師は、目的や意図をもって、それらを取捨選択したり、組み合わせたりしながら子どもによる自己評価の活動場面や教師による評価（見取り）※の場面を設定する。

※教師による評価（見取り）

【評価基準】

ア．一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか

例）・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。

・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか。

・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか。

イ．道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか

例）・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか。

・道徳的な問題に対して、自分の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているか。

・道徳的価値を実現する難しさを自分事として捉え、考えようとしているか。

【令和４年度実践例】滝川第二小学校

心情線・ワークシート・板書の工夫により、考えの見える化を図ることで、児童が自己評価・振り返りが行いやすくなるという効果があった。また、板書を写真に残すことで評価に活用できることや心情線の変化からその時間での道徳性の変容を見取ることができることを確認した。

【令和４年度実践例】東小学校
　ロイロノートを有効に活用することで児童側からも教師側からも評価のしやすい授業が展開できた。また、ロイロノートに記入したことをポートフォリオすることで、道徳性の変容（思考の変化）や成長の過程などを評価できることや自己評価への意識の高まりにつながることを確認した。

参考（令和２年度までの実践より）

１．道徳科における言語活動の充実

　学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

（１）道徳科の授業における言葉

　道徳科の学習では、中心的な教材を活用し、児童の体験や教材に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習の中心となることが多い。その意味からも、道徳科の授業における言葉の役割はきわめて大きい。

　国語科では言葉にかかわる基本的な能力が培われるが、道徳科の授業では、このような能力を基本に、教材や体験などから感じたことや考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論や討議などにより意見の異なる考え方に接し、協働的に議論したり意見をまとめたりする。

　具体的には、

- 教材の内容や登場人物の気持ちや行為の動機などを考える。
- 友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、話し合ったり書いたりする。
- 学校内外での様々な体験を通して感じ、考えたことを、道徳科の授業において言葉を用いて交流したりする。

　このような活動の中で、国語科等で培った言葉の能力が生かされ、一層高められていく。

　したがって、道徳科の授業においては、このような言葉の能力を総動員させて学習に取り組ませることが、ねらいを達成する上で重要である。

（２）自分の考えを基に書いたり話し合ったりする（表現する）機会の充実

　話し合いは道徳科の授業によく用いられる指導方法であるが、話し合いを深めるためには、児童生徒一人一人に自分の考えをもたせ、効果的に表現させるなどの工夫が必要である。

ア　自分の考えを明確にさせるための書く活動

　教材から感じたとった自分の思いや考えを、自己の生活、体験、知的経験等に引き寄せて明らかにするためには、「書く」という活動が大変重要である。

　書く活動により、児童生徒が自ら考えを深めたり、あいまいであった考えを整理したり

する機会となる。

したがって道徳科の授業においては、自分の考えを明確にさせるための書く活動に必要な時間を十分に確保することが大切である。

また、書く活動により、児童生徒の感じ方や考え方をとらえ、個別指導を進める重要な機会にもなる。更に、1 冊に綴じられた「道徳ノート」などを活用することによって、児童生徒の学習を継続的に深めるとともに、その変容を見取ることが可能となる。

イ　個々の考えを広げ、深めるための話し合い活動の工夫

道徳科の授業において、自分の思いや考えをより多面的にとらえたり、新たな考えに出会い深化させたり、自己の葛藤の中から新たな価値観を見いだしたりしていくためには、話し合い活動が重要な役割を果たす。

話し合い活動を深めるためには、意見を出し合う、まとめる、比較する等の目的に応じて場の設定等を工夫することが大切である。具体的には、

- 児童生徒同士の顔が見えるような座席配置を工夫する。
- グループやペアによる話し合いを取り入れる。（話す機会が増え、多くの発言を引き出すことができる）
- 同じ考えをもつ子ども同士が集まるように座席の移動を行い、一人一人の立場を明確にして話し合う。　　などの工夫が考えられる。

道徳科の授業における話し合い活動は、友達との話し合いにより自分なりの思いや考えが深まり、道徳的価値の自覚につなげていくことが大切である。そのためには、学級の中に全ての意見を受け入れる温かい風土が確立されていることが前提となる。

2．道徳科の授業における「書く活動」「話す活動」の役割とねらい

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。言葉は、知的活動だけではなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳科の授業においてもその言葉を生かした教育についての充実を図ることが大切である。

（1）「書く活動」の役割とねらい

書くことは、教材との出会いで生じた自身の思いや考えを深めたり、整理したりすることにつながる。また、書く際には、論理的な思考力や適切な判断力が求められ、それらの能力の育成にもつながる。そして、書くという自己を表現する活動によって、自分の考えや立場を明確にすることもできる。そして、書いた内容は周囲の人たちと共有し、共通のものとすることもできる。

本研究では、これらを「書く活動」の役割・ねらいとおさえる。

（2）「話す活動」の役割とねらい

話すことには、情報伝達の役割がある。また、他者に対して、自己についての理解をうながすねらいもある。そして、伝達や交流によってよりよい考えを生みだすという意味合いもある。

本研究では、これらを「話す活動」の役割・ねらいとおさえる。

◆「書く活動」の役割とねらい
①自らの考えを深めたり、整理したりする。
②論理的な思考力や適切な判断力を育成する。
③自分の考えや立場を明確にする。
④周囲の人たちと共有し、共通のものとする。

◆「話す活動」の役割・ねらい
①情報伝達のねらいがある。
②他者に対して、自己について理解をうながす。
③伝達や交流によってよりよい考えを生みだす。

「書く活動」と「話す活動」は、いずれも主として言語による表現活動である。前者は文字言語によって、後者は音声言語によって行われる。

学級で話し合うとき、事前に自分の考えなどを一人ひとりに書かせる。このことは、自分の考えを持つ機会になると同時に、「話す活動」に参加するための前提となる。

また、子どもたちは互いに話すことによって、違った考えや見方を知ることができ、新たな知識を習得することができる。この活動を通し、初めに考えたことが、その後に修正される可能性が生じてくる。

話したあとに改めて「書く活動」を組み入れることにより、これまでの学習を振り返り、自分の考えの変容を自覚することができ、自己評価をする機会になる。

３.「書く活動」「話す活動」を生かした指導過程の工夫

「書く活動」と「話す活動」が道徳科の授業の中で意図的・計画的に仕組まれ、それぞれの活動を充実させることにより、道徳科のねらいである、道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深めることにつながると考える。このような指導過程を基本とし、道徳科の授業を行うことによって、目指す子ども像「自己の生き方についての考えを深め、主体的に行動しようとする子ども」に迫っていきたいと考える。

Ⅲ．保護者や地域の人材(教材)を活用した指導

児童生徒に自他の生命を大切にするなど豊かな心をはぐくむためには、様々な人たちとのかかわり合いの中で、多様な生き方・考え方を学ばせることが必要である。

そのためには、道徳科の授業において保護者や地域の方などを外部講師として招き、生き方や生命に関する貴重な経験など、主題や中心教材にかかわって話をしてもらう、質問を受けてもらうなどの指導の工夫が求められる。

参考（令和２年度までの実践より）

１．学習指導過程への位置付け

保護者や地域の方などの支援による指導を充実させるためには、次の視点で学習指導過程を工夫することが大切である。

導入

・導入において保護者や地域の方にお願いする話の内容などについては、主題について児童生徒が興味や関心をもったり、課題意識を高めるよう配慮することが大切である。

展開

・保護者や地域の方の語りや説話を、展開における中心教材として位置づける場合は、児童生徒たちの話し合いが深まるよう、保護者や地域の方などから問いかけを入れていただくことが効果的である。

・保護者や地域の方の講話などを、補助的な教材として位置づける場合は、主題にかかわる事柄を補足したり意味付けをすることもできる。話し合いを深めるためには、保護者や地域の方が直接、児童生徒たちの討議に参加することも考えられる。

終末

・児童生徒に寄せる保護者や地域の方の愛情は、児童生徒の心に響き感動的な話としていつもまでも心に残る。終末における保護者や地域の方の説話などを、１時間のまとめとして活用したり、今後の発展につなげることが大切である。

２．保護者や地域の方を迎えるための配慮事項

保護者や地域の方の支援を得るにあたって次のことに配慮することが必要である。

道徳授業の特質	事前打ち合わせ	あいさつやお礼
・保護者や地域の方を招いた授業を授業改善の一つととらえ、道徳科の特質を押さえ、有意義なものとなるように工夫する。	・保護者や地域の方から協力をいただく目的、授業のねらいと参加していただく形態などについて、事前に打ち合わせをしておくことが大切である。	・保護者や地域の方に対する接し方やあいさつ、授業後のお礼の手紙など、児童生徒に対するきめ細やかな指導が必要である。

３．道徳授業の発信と双方向の取組

児童生徒の豊かな心をはぐくむことは、１時間の授業のみで完結することはあり得ない。また、学校における指導のみで十分ではないことも言うまでもない。学校と家庭が同じ方向を向き、子どもの豊かな心を育てる思いを共有しながら道徳教育を推進することによって、初めて成果が表れるものと考える。

そのためには、学校で行っている道徳授業に関わる積極的な情報の発信と、教師と保護者双方向の取組の推進が求められる。

第３章

令和４年度
授業実践

道徳科学習指導案

日　時　令和４年１０月２８日(金)　５校時
児　童　滝川市立滝川第二学校４年２組２５名
指導者　教諭　尾崎　真紀

１．主題名「　友達との信頼ときずな　」　中学年　Ｂ―友情，信頼

２．ねらいと教材

（ねらい）①友達とよりよい人間関係を築くために，友達のよさを理解し，互いに助け合う大切さがわかる。
②友達とのトラブルを恐れずに，よりよい人間関係のあり方を考える。
③友達と互いによく理解し，信頼し，助け合うことで健全な仲間集団を積極的につくっていこうとする意識を高める。

（教材名）「絵はがきと切手」　（小学道徳４　はばたこう明日へ　教育出版）

３．主題設定の理由

（１）児童(生徒)の実態（児童(生徒)観）

本授業を行うにあたり，ねらいとする価値に対する児童の実態を把握するため，道徳性に関する調査を実施した。本時に関連する項目の結果は次の通りである。

項目			ア	イ	ウ	エ
B	6	おもいやりの気持ちを考えながら，親切に人と接している。	１０	１０	2	0
	7	お世話をしてくれる人や，お年よりに感謝のきもちをもって接している。	１３	8	1	0
	8	あいさつをしっかりして，れいぎ正しく人と接している。	１３	5	4	0
	9	友達のことをわかろうとして，助け合っている。	１０	１２	0	0
	１０	自分の考えを相手に伝え，自分の考えと違う意見も大切にしている。	１０	8	4	0

ア～いつもしている，そのとおりだ　イ～だいたいしている，だいたいそのとおりだ
ウ～あまりしていない，あまりそうではない　エ～全然していない，全然そうではない

本学級は，積極的に自分の考えを述べることができる児童がいる一方，自分の考えをどう表現してよいかわからない児童もいる。しかし，これまでの道徳を通して，そのような児童も，友達の考えから自分が共感した考えを基に，自分の考えをもつことができるようになってきた。

事前にとったアンケートの結果から，友情，信頼に関する項目は概ね良いという結果がでたが，日常の生活と比較すると，何が友達のためになる行動かという考えには至っていない児童も多く見られる。よりよい人間関係の在り方について本授業で考えを深めさせたい。

（２）ねらいとする道徳的価値について（授業者の価値観）

本主題は，「友達と互いによく理解し，信頼し，助け合おうとする心情を育てる。」ことをねらいとしている。しかし中学年段階においては，本当の信頼・助け合いの気持ちについて考えていないのが現状である。本当の友情とは，お互いの良いところだけではなく，不十分なところも認め合い，信頼し合うことで生まれてくるものある。よりよい人間関係を築くには，時には厳しさが伴うこともありえることについて考える契機としたい。

（３）教材について（教材観）

「絵はがきと切手」は，定形外の郵便物を送ってきた友達に対して，その事実を教えるか教えないか主人公のひろ子が迷うが，最後には１２０円の切手を貼らなければいけないことを知らせる決心をするという話である。

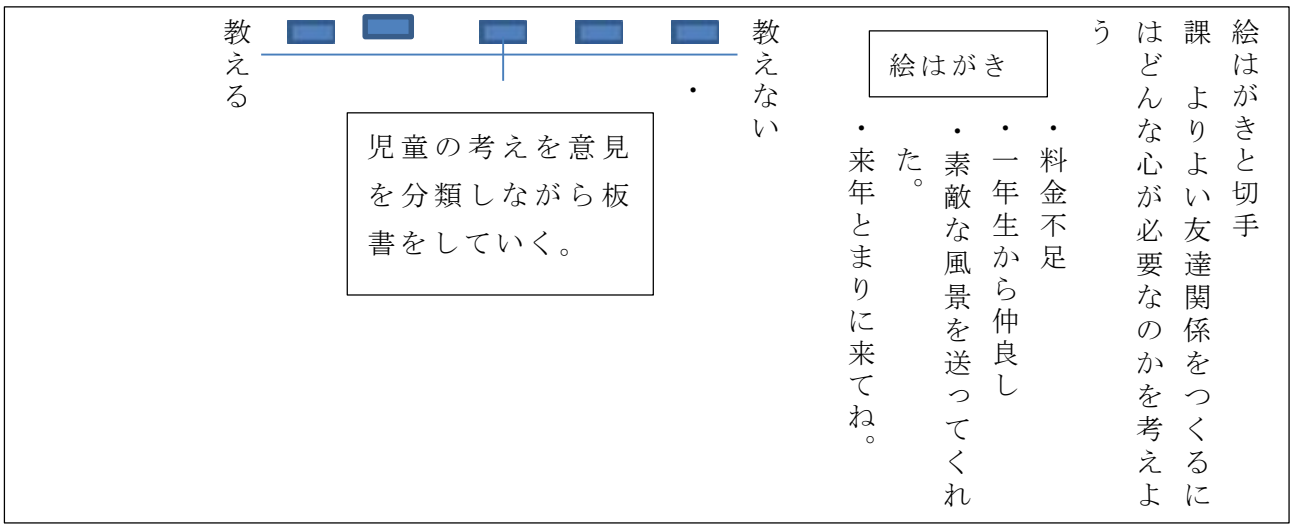
本授業では「相手に教えるか教えないか」という葛藤から何が友達のためになるのかを考えて行動しようとする心情を育んでいきたい。

４．本時の展開

段階	主な発問 （○土台，●問い返し，◎中心）	予想される児童(生徒)の発言・思考	教師のかかわり ◆評価，教師の手立て
導入 5 分	１．友達について思うことを交流する。 ○あなたにとって友達とはどんな人ですか？	・やさしい人 ・親切 ・助けてくれる ・教えてくれる	
	課　よりよい友達関係をつくるにはどんな心が必要なのかを考えよう		
展開前半 5 分	２．「絵はがきと切手」 （Ｐ８２　１０行目まで） ○あらすじの確認	・料金不足のはがきが届いたこと ・ひろ子と正子のなかの良さ ・届いた絵はがき見てひろ子が思ったこと ・兄の言葉，考え ・母の言葉，考え	・範読 フラッシュカードなどを活用し、取り上げる場面を明確にする。

展開後半27分	◎あなたがひろ子さんならどうしますか？	・教えたら嫌な思いをさせる。 ・嫌われるのが怖い。 ・もう手紙をもらえないかもしれない。 ・他の友達にも間違えてだしてしまうかもしれない。 ・仲良しだから教えても嫌われない。	ワークシートの心情線に考えを示し、理由を書かせる。 黒板にネームカードを貼り、全員の考えを知ることができるようにする。
	３，Ｐ８２　１１～最後 ・ひろ子が決めたことの確認 ●ひろ子の行動や友達の考えを聞いて，考えがかわった人はいますか？	・手紙の最後に１２０円切手を貼ることを教えてあげる。 ・考えが変わった理由を発表する。 ・まだこわいから言えないかも。 ・教えられる友達でいたい。	・範読 黒板のネームカードの移動をさせる。 ・ペアで話すことで自分の考え，友達の考えに気づかせる。
終末8分	４，今日の授業のふりかえり ○よりよい友達関係について今日気づいたこと，考えたこと今後について思うことを書きましょう。	・本当の友達なら間違いを教えてあげることも必要。 ・これからも助け合っていきたい。	◆友達と信頼し，助け合うことの大切さについて，自分との関わりで考えることができているか。

５．板書計画



《引用参考文献》

・　小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　　文部科学省

道徳科学習指導案

日　時　令和４年　11月　14日(月)　５校時
児　童　滝川市立東小学校５年２組　34名
指導者　板垣　昭太

１．主題名「大切な命」　５学年　―D生命の尊さ

２．ねらいと教材
（ねらい）①生命がかけがいのないものであることがわかる。
②「生きる」とは、どのようなことなのか、それぞれの立場で考える。
③生きるとはどういうことなのかを考えることで、生命を尊重しようとする意識を高める。
（教材名）「希一光の中を歩んだきょうだい」（小学道徳５　はばたこう明日へ　教育出版）

３．主題設定の理由
（１）児童(生徒)の実態（児童(生徒)観）

項目			ア	イ	ウ	エ
B	7	だれに対しても、思いやりの気持ちをもって、親切にしている。	10	20	3	0
	8	感謝の気持ちを持って、人と接している。	19	14	0	0
	11	相手の立場に立って考え、自分と違う考えも大切にしている。	10	20	3	0
C	15	家族の役に立つことをしている。	13	13	6	0
D	19	自分の命、他人の命を大切にしている。	29	4	0	0
	22	努力している人の姿に感動したり、自分もそうしていきたいと感じることがある。	19	10	4	0

ア～いつもしている、そのとおりだ　　イ～だいたいしている、だいたいそのとおりだ
ウ～あまりしていない、あまりそうではない　エ～全然していない、全然そうではない

本学級は，積極的に自分の考えを述べることができる児童がいる一方，自分の考えをどう表現してよいかわからない児童もいる。しかし，これまでの道徳を通して，そのような児童も，友だちの考えから自分が共感した考えを基に，自分の考えをもつことができるようになってきた。
事前にとったアンケートの結果から、感謝、家族愛、生命の尊さに関する項目は概ね良いという結果がでている。ただ、日常の生活で比較すると，命の尊さについて深く考える活動などは、経験が少ないと考える。自尊感情を高め、人間関係の在り方について本授業で考えを深めさせたい。

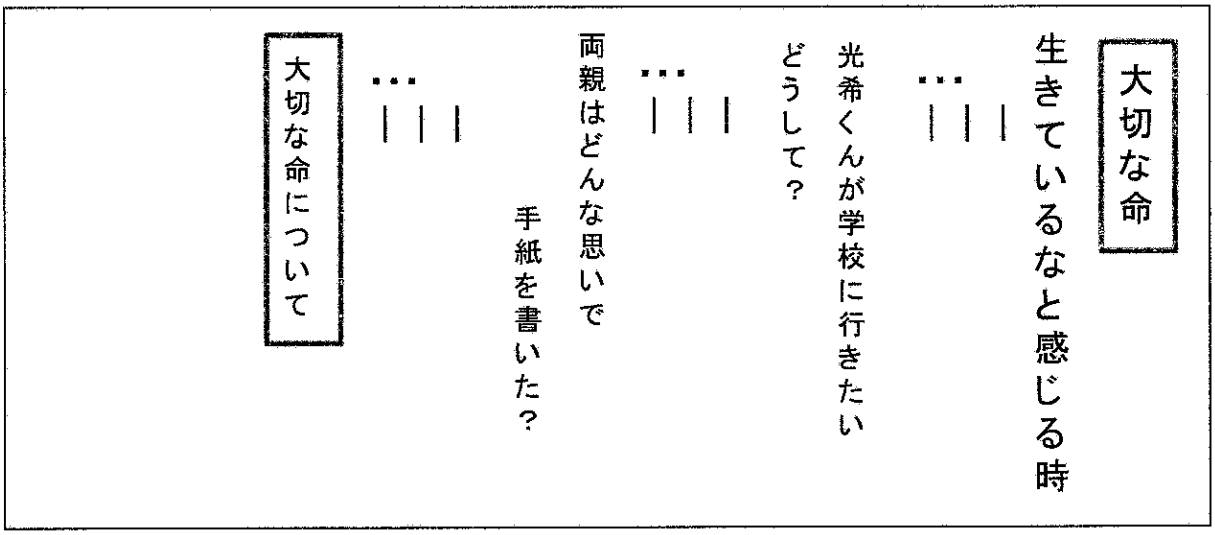
（２）ねらいとする道徳的価値について（授業者の価値観）
本主題は，「かけがえのない命を尊重しようとする心情を育てる」ことをねらいとしている。高学年で、生命の尊さ、生きることについての考え方には各々の経験によっても、考え方にはばらつきがある現状である。二人のきょうだいと、両親の気持ちを考えることで、あたりまえに過ごしている日常の大切さへの考えを深めたい。

（３）教材について（教材観）
「希一光の中を歩んだきょうだいー」は、難病を抱えたきょうだいと、クラスメイト、両親、病院スタッフの関わりを書いた実話である。
本授業では、『命』について『家族愛』にふれ、日常生活のありがたさ、大切さに触れ考えを深めていく。

4．本時の展開

段階	主な発問 （○土台、●問い返し、◎中心）	予想される児童(生徒)の発言・思考	教師のかかわり ◆評価、教師の手立て
導入 5分	課題 『命の大切さ』 ○どんな時に生きていると感じますか？	 ●おいしいものを食べた時。 ●友だちと遊んでいる時。 ●病気をした時。	◆テーマを板書する。 ◆ペアから全体へ
展開前半 15分	本文『希 一光の中を歩んだきょうだい一』 朗読の動画を流す。 登場人物の紹介。 ○発問(心のつぶやき①) 『光希くんはなぜ「学校に行きたい」といったのでしょう？』	 ●自分が学校に行けばお姉ちゃんが喜んでくれると思ったから ●先生や友だちに会いたいから	◆朗読は教科書を見ながら ◆ペアから全体へ
展開後半 10分	**○価値の主体的自覚** 『あなたたちはどんな時に「学校へ行きたい」と思いますか。』 ○本文の続き両親からの手紙部分を流す。 ○『お父さんとお母さんはどのような思いで、2人への手紙を書いたでしょう？』	 ●友だちに会いたい時 ●友だちと遊びたい時 ●今まで本当にありがとうという思い。 ●幸せな時間をくれてありがとうという思い。	 ◆ペアから全体へ ◆グループから全体へ 両親からの目線で子どもへの思いに気づかせる。
終末 15分	**○まとめ・整理** ○動画『最期の川』を見る。 （余韻をもたせる） ○『今日の授業で考えたことや、感じたことを書きましょう。』	 ●命のありがたみが分かった。 ●普段の暮らしが当たり前ではないことがわかった。	◆ひとり道徳の時間確保。 ◆振り返りを提出し、発表させる。 ◆生きるとはどういうことなのかを考えることで、生命を尊重しようとする意識を高める。 (評価:振り返り、発表)

５．板書計画



《引用参考文献》
・　教育出版　『小学道徳５　はばたこう明日へ』

【補助教材】
『象の背中ー最期の川』
https://www.youtube.com/watch?v=11-37c7ZdhM&feature=share&utm_source=EJGixIgBCJiu2KjB4oSJEQ

授業実践の反省～研究協議より～

尾崎真紀教諭

主体的に思考することを促す発問について

○「あなたがひろこさんならどうしますか。」の発問がとても端的で、児童にとってはやることが明確なので、個人思考にスムーズに移行できたのかなと思いました。

○黒板のネームプレートを移動させる際に、「ちょっとでもいいから気持ちに変化があった人は動かしてください。」と伝えていたことで、自信のない児童も意見を変えやすくなったり、ちょっと意見が変わった人の意見を聞くのもおもしろかったりして、児童の思考を深められたのではないかと思います。

○土台づくりの発問がリズムよく、中心発問も明確だった。問い返しについても効果的に行われていました。

○日常からの土台づくりをしっかりとされているのを感じました。

●日常からの土台

・児童が自分の言葉を全体の場で堂々と述べることができる。

・友達の意見に共感し、それを自分自身の考え方にも反映させることができる。

・友達の発表を聞く時の姿勢。

・プリントに自分の思いを書くことができる。

※実際に書いた内容は、見ることはできませんでしたが、全員が教師の指示を聞き、スッとプリントに記入している姿を見て感心しました。

・わからないことがあった時に、しっかりと質問することができる。

・グループでの話合いの時に、積極的に参加し他人事ととらえず、自分のこととして真剣に考えることができる。

●問い返し

・一番印象に残ったのは、５７円不足していた事を教えると児童が発表した場面です。「どんな風に教えるの?」と先生が問い返した時に、「今度は、５７円不足だからちゃんと払おうね」と答えている姿にとても感動しました。それを発表した生徒の口調がとても優しく、友達のことを思いやる雰囲気に満ちていました。様々な葛藤がありながらも「本当の友達だからこそ優しく伝える」と判断し、その場面を再現できたのは、日頃から仲間を思いやる温かい心を持っているからだろうと感じました。「日常生活の中で生きる道徳」について、深く考えさせられた場面でした。

●展開後半で、「共通していることは何だろう」と先生が考えさせた場面で、

「どっちも正子さんのことを心配している」

「お友達思い」

「どちらも相手のことを思っている」→『たしかに』と周りから出てくるところも良かった。どちらの意見も、間違いではなく「正子さんのことを大切に思っている」ということが、全体の場で確認できたと思います。その肝心な所を、児童の言葉で交流できるというのが素晴らしいと思いました。

○子どもたちが○○するという行動での発言をした際に，先生が「なんでですか？」や「どうして？」という，子どもの内面に迫る問い返しを行っていたことで，表面的な行動だけでなく，その背景の思いにまで迫ることができるのだなと感じました。展開前半が短く，かつ状況は把握しやすかったなと感じました。

○導入の段階でタイトルを書いて「絵はがき」って誰に出す？という発問から「じゃあ皆さんにとって友だちってどんな人？」と生徒の発言をもとにスムーズに土台作りの発問へと流れていました。

○「あなたがひろ子さんならどうする？」との発問では、自分だったらこう思うという自分事として考えられるような発問だったので勉強になりました。

○子ども達からの意見を拾い上げて、「なんで悲しいの？」「なぜ？」「共通していることは？」と聞くことって、子ども達が自分の考えを深められるような発問になっていたと感じました。

○発問に対して児童がペア学習をしたり、自分の考えを書くことができていました。普段からの取り組みができていて、本時についても思考を促すことができていたと感じました。

○自分たちにとって友達とはどんな存在か近くの人と話し合い言語化することで、どの児童も課題を正しく掴むことができていた。

○心情線にネームプレートをおいたあと発表を個人で行っていたが、なかなか言葉にできていない児童も多かった。

子どもによる自己評価と教師による評価（見取り）について

○発問のところにもつながるのですが、教える側と教えない側の意見で「共通していることはあるかな。」という発問で、「友だち思いなところ」や「友だちを心配しているところ」という反応が出ていたので、本時の目標にぐっと近づいていたのではないかと思います。その後、児童は振り返りを書きやすくなったように感じました。

○子どもによる自己評価は、自分の意見を発言したり他の友だちの意見などを聞いた上で、ワークシート上で振り返ることができていました。

○指導案検討の時、私は、小学校４年生が、どれぐらいの発達段階にあり、学級の実態がどのようなものか把握できていませんでした。しかし、実際に授業を見て、小学校４年生の思考の深さや豊かな感受性に驚きました。

○ひろ子の行動や友達の考えを聞いて、考えがかわった人はいますか？

と教師が問いかける展開後半が、私は、小学校４年生には、とても難しいことなのではないかと考えていました。けれど、ここで、５名ほど考えが変わった児童がおり、それぞれにしっかりと理由まで伝えられていました。尾崎先生の児童の考えの引き出し方や、発言のまわし方が本当に勉強になりました。

〇子ども達の今日の授業で考えが広がったという言葉や，最初は～～だったけど，～～という考えも増えたという言葉があり，学習過程が効果的だったことを感じました。

〇ワークシートも簡潔で見やすかったです。

〇一人道徳の時間を確保し、振り返りの発表をさせたことで評価できる環境が整っていたと思います。

〇心情線を用いた交流。全体発表の際にうまく言語化できていない児童がいたので、少人数の方が自由で活発になると思ったため、多くの意見に触れたりするのであれば立ち歩き交流でも良いのかと感じました。児童観や指導観からこのような形式にされたとは思うのですが、ぜひ発表の形態について尾崎先生の考えをお聞きしたいです。

〇考えが変わった人の中で終盤に発表していた子、とても良かったですね。「どっちにしろ教えるべき」「たしかに自分だったら・・・」など自分ごととして捉えられていました。「私はブレずに変わりません」「ふりきっている人」「真ん中に変わった人もいる」など先生の言葉遣いもすごく素敵でした。あまり関係ないかもしれませんが「あ?」「たしかに！！」に対して先生が反応したあとの学級の反応の変わり方から、すごく信頼されているのだなと思いました。

授業展開、教師の手立て等について

〇黒板の使い方やネームプレートの動かし方など、児童が考えを深めやすいような工夫が凝らされていてとても参考になりました。また、授業を通して児童に考えさせたいポイントも明確でひじょうにわかりやすかったです。

〇授業展開のリズムが良かったです。特に板書の構成が素晴らしく、見やすく、わかりやすかったです。心情線を効果的に使ったり、子どもの発言を適切に板書しており、考えの見える化ができていたと思います。大変お疲れさまでした。

〇黒板にネームカードを貼るのは、とても良い方法だと思いました。

　この場面で、様々な考え方があることを十分に交流できたことが、後半の授業の深まりにつながったと思います。

「間違いをなくしてあげる」

「軽く言う。」→理由「また５７円を誰かに払わせてしまうかもしれないから」

「言ったら悪い、悲しませる。」

「怒っちゃうかもしれないから教えない」

「傷つけたら嫌だ」

「ルンルンがどよんになっちゃうかもしれないけれど、知らないで大人になったらまたやっちゃう」

〇ブレない児童

「教えてあげなきゃダメかな。でも、一番最後にそのことを書いたら気をつかわせちゃう。だから、最初に書く」

金額が不足していたことだけではなく、その奥にある心情を想像して「伝え方」まで考えることができるのは、この教材を自分ごととして受け止めているからできることだと思いました。

・まとめの中で聞かれた印象的な言葉

「教える一本だったが、悲しむ側の意見を聞けてよかった」

「何でもかんでも言うのではなく、必要なことを傷つけないように言う」

友達の考え方を尊重し、自分の考えをまとめていくことのできる力。あらためて大切だと思いました。

〇正子の立場に立ち考える児童

「逆の立場に立って、ニコッとしながらそうなんだと言う」

こういう児童の発表は、多くとりあげ、様々な立場になった時に、どのように行動するか考えさせることのできる道徳を目指したいと思うことができました。

〇自分の立場を視覚化させることはすごく効果的だと思いました。その上に思いを板書することで，複数の立場の考えが見やすかったです。導入部分でどのように課題（本時で考えること）につなげていくかは自分自身の課題であり，難しいなと思いました。

〇子ども達が発言する場が多く、発言しやすい雰囲気作りや発表者の方に体を向けて話を聞く姿勢などがしっかりとできていて感動しました。

〇子ども達の発言を事前に予測し授業準備（板書計画等）をされていたので、非常にテンポが良かったと感じます。

〇心情線を上下に分けて、気持ちの変化があった人とそうでない人の区別が視覚的にわかりやすく、今後の授業で取り入れていきたいと思いました。

〇児童の動き（起立や指名など）が多く、ぼーっとしている時間がなかったので全員参加型の授業でとても勉強になりました。

〇名前を気持ちのレベルで黒板に貼ることで、自分の立ち位置や考え方がわかり思考が見える化されていて良かったです。多面的な考え方として、自分がもし間違いを指摘された友だちだったらどんな気持ちになるか考えさせることで、さらに思考を深める学びになったかなと思います。

〇「教える」「教えない」ではなく、どちらも共通して”相手のことを心配したり思いやったりしている”ことに気づいた子どもたちが多いと思います。授業の展開がとても良い、いい意味でもやもや感があふれる素敵な授業でした。お疲れさまでした。

授業実践の反省～研究協議より～

板垣昭太教諭

主体的に思考することを促す発問について

○価値の主体的自覚ということで、光希くんの話を自分に置き換えて考えさせたところが、児童の考えをより深めさせたり、自分ごととして考えさせたりするのに効果があったと思いました。

○教材を読んだ時に、涙が出ました。教材そのものに、「生きること」「親の思い」「兄弟への思い」等、様々なことを深く考えさせられるものだと感じます。実話であることの重みを感じました。児童のまとめの中に、「普通に生きているのはすごいと思った」「生きていることが当たり前じゃないんだってあらためて思った」という感想がありました。この教材を通して、児童は自分の経験値をはるかに超えた悲しみや辛さを自分なりに想像したと思います。その中で、自分自身が「生きていること」にすごさを感じることができたのは、とても価値のあることだと思いました。

○「どんな時に生きていると感じますか？」という先生からの問いかけに対して、児童は、いきいきと返答していたように思います。その発表を板書し、全員に挙手させる場面がとても印象に残りました。教師の学級全体を惹き付ける力が素晴らしいと思いました。

○児童の発表の時に、自然に拍手が起きているのをみて、日常の土台作りからしっかりとされているのだろうと思いました。発表の苦手な児童にとっても、勇気を持って発表して受け入れられたという安心感がわくと思います。

○児童の目線に立って、共感しながら進めていたので、発言しやすい雰囲気になっていたと思います。

○最初の「生きているな」と感じるのはどんな時？との発問では、様々意見が出た中、なかなか手が進まない児童も友達の意見を聞いて「あ！」と思いついていたようでした。

○「どんな時に学校へいきたいか」「なぜ学校へ行きたいと言ったか」
「どのような思いで２人に手紙を書いたのか」
どの発問も子供の思考を促すためには必要だと感じました。
２つの立場に立って気持ちを考えるという対照的な思考が、価値観に迫るには必要だったと思います。奥田さん、尾形さんはとても素敵な考えを持っていますね。

滝川市立東小学校

子どもによる自己評価と教師による評価（見取り）について

○自分の考えを早く書き終わった児童は、ロイロノートで他の児童の考えを見ていたと思うのですが、他者の意見と自分の意見を比べるという点で効果的だと思いました。

○ロイロノートをとても上手く活用していると思いました。Chromebook に向かって、黙々と打ち込む姿だけを見ると、書くことの大切さも考えてしまいます。しかし、実際に chromebook に打ち込まれた内容を見ると純粋に「命」の大切さを見つめ、深く考えているものが多く、「自分の考えを伝える」という手段に変わりはないのだと気付かされました。

○児童のまとめで「勝ってに散っていくことが許されないもの」と読み、驚きました。ここまでの思考に持っていくことができるのがすごいと思いました。

○子ども達自身の言葉で、「命」について考えたことや感じたことを記入できていたので、ねらいを達成できたのではないかと思いました。

授業展開、教師の手立て等について

○児童が考えを記述する際に、スラスラと自分の意見を書いていたので、普段から書くことを積極的に行っていることが伝わってきました。また、児童のタイピングのスピードが速くて驚きました。お忙しい中、準備や研究授業の実施お疲れ様でした。ありがとうございました。

○全体的に、授業の流れがとても良いと感じた。その理由の一つに。生徒が発表した後の教師の反応がさっぱりとしているというのがあると思う。生徒の発表を復唱したり、その考えにどう思ったか教師が述べることなく、生徒の発表そのものを聞き取っているところに潔さを感じた。その分、多くの児童の発表を聞き出す時間を確保できていた。

○児童の発表の声が大きく、発表している内容にもまとまりがあり、しっかりとしていると感じた。

○「最後の川」の動画は、児童の心に深く残るものだと思う。教師が多く語らなくても、教材を工夫することで児童に深く考えるきっかけを与えることができるのだと感じました。動画を含めた、道徳の教材を滝川市全体で共有できるといいですね。

○はじまる時間、終える時間をしっかりと守っていて授業の秩序をしっかりと保たれている

のを感じた。しかし、最後、この授業で考えたことや感じたことを、全体の場で交流できると、より考えを共有できたのではないかと思う。授業後の様子から、授業の内容について話している児童が多くおり、言葉にはうまく表すことはできないかもしれないような感情。（それを、「感動」と打ち込んでいた児童もいた）自分の中で、まとまらないような気持ちも友達の発表を聞くことでストンと落ちる生徒もいる場合もあるので。

○ベルを鳴らすことで、切り替えが素早くできてテンポの良い授業だったと思います。

○あえて範読の CD を使わず自作のものでイラストも付きだったので驚きました。先生の準備に感動しました。

○ロイロノートの活用とても参考になりました。ふだんはロイロノートではなく Google を活用することがおおいので、資料やワークシートの交換がスムーズで驚きました。一人一人の意見を集約することが出来る一方、思考の交流の場面の設定が難しく、多様な考えに触れる機会をどこで保証するのか。自分だったらどうすれば良いか考えながら参観しました。交流させるかどうかはそのときに扱う価値によって変わるのかもしれませんが、最後のアンケートを見ると「命は大切だとわかった」という考えから広がらなかった児童もおり、難しい価値観であってもいろいろな意見に触れさせるとよいと感じました。

○最後の動画は、かなり考えさせられ、自分の胸が熱くなるのも感じました。避けては通れない死別をどのように受け止めたら良いのか、意見はできなくても素敵な思いを持つきっかけになっていたと思います。大変勉強になりました。授業、お疲れ様でした。

○ロイロノートで提出することで，他の子どもの書いていることが簡単に読むことができていた。教材から，離れて自分自身とのかかわりで振り返りを書いている児童がいたことから，発問は児童の思考の流れにそっていたのではないかと感じました。授業をしていただきありがとうございました。

第４章

成果と課題

滝川市道徳教育研究会議　研究のまとめ（５年研究２年次）　（○成果　●課題）

1　研究内容について

（１）道徳科授業の質の向上～『主体的・協働的』な学習の姿を明らかにする発問～

①児童生徒が道徳的価値を自分ごととして主体的に思考することを促す発問について

成果	○主人公のような場面であったら自分はどう考え，判断するのかと問うことで，自分自身を重ねて考えることができていたと思います。 ○意見が分かれる場面や葛藤場面での心情線が効果的であったと感じます。 ○葛藤が生まれるような発問を意識することで、児童の自由な考えを引き出すことができる。 ○問い返しを重視することで、児童を揺さぶることができ、思考の深化を図ることができた。 ○教材の登場人物の心情や葛藤を「あなたなら、どうする？」「あなたは、どう思う？」という発問は、自分のこととして考えるのに良いと思う。 ○心情線を使った発問は大変良かった。 ○自分の考えを交流したり議論したりして、考えが変わったかを問う発問も効果的だと思った。 ○発問や問い返しの工夫に加え思考ツールを用いて、個々の考えの変化を実感できる手立てを考えられていた。 ○自分の考えの変化に注目し、子供たちがその理由を伝えあうことで、更に考えが広まったり深まったりする場面がみられた。 ○主題について自分はどう思うかを考えてから話し合いに移行することで道徳的価値を自分事にできていた。 ○授業の中で登場人物の気持ち等だけではなく、自分ごととして気持ちを考えたりする活動をすることができた。子どもたちが道徳の学習を家庭に持ち帰って振り返るなどの成果も見られた。 ○小学校、中学校の実践を参観したことにより、『発問』の重要性を再認識することができた。土台作りの発問、中心発問、問い返し等を授業の中で効果的に取り入れながら、生徒の思考が深まるように工夫した。また、過去の経験や身近なできごとを考えさせることや、読み物の登場人物の心情を考えた上で、自分ならばどのように考え行動するかを問いかけることで、自分ごととして思考できるよう働きかけた。 ○「あなただったらどうする？」等、授業者の声かけによって自分事として考えることができていたため、発問の内容がいかに大事かを再認識できた。 ○児童生徒からでた意見を拾い上げて、「なんでそう思うの？」と聞くことで、より考えを深められていた。 ○どちらの授業も導入段階において、興味や関心を高める工夫がなされていた。 ○どちらの授業も児童が主体的に考えつつも、他の意見をよく聞き、自分の考えを高めようとしている姿勢が見られた。

課題	●自分ごととして捉えにくい題材の発問に苦慮した。 ●終末場面での振り返りや感想ではなく、展開の後半で資料から離れてねらいとする価値についての考えを深めたり、自己の経験や体験と照らし合わせて考えさせたりする場面があるといいかと思う。 ●考えの変化や感想を言語化する場面では、思うように言葉で表すことのできない児童も多くみられた。ノート、ワークシート、ICT 機器とさまざまな手段はあるが、言語化できない児童が自由に表現できるような手立ても必要だと感じた。(図や絵で表す場合などは、ノートが有効だったり、それぞれの考えを見比べるには ICT 機器が有効だったり…。授業内での指導者の気づきや判断が大切だと思う。) ●本時の課題を児童主体で設定できるような発問をした方がいいのか、それとも教師が設定した方がいいのか。 ●道徳的価値を生徒自身が感じ、それを実生活の中で生かすことのできるような授業を学校全体で取り入れていく必要があると感じている。そのためにも、ロールプレイを効果的に取り入れた授業や、グループで話し合いながら考えを深めていくような協働的な学習についての知識を得る必要があると感じている。 ●自分の考えをどのように言語化していくか。

○導入段階において、興味や関心を高める工夫
○自分ならばどうのように考え行動するかを問うことで、自分事として考えることができていた。
　→家庭に持ち帰って振り返ることにつながった。
○葛藤が生まれるような発問→自由な考えを引き出す
○問い返し→思考の深化
○心情線が効果的だった。
○思考ツールの活用により、個々の考えの変化を実感できた。
○交流・議論後、考えが変わったかを問う発問が効果的
○他者の意見を聞くことで、自分の考えを高めていた。
●自分事として捉えにくい題材の発問
●展開の後半で資料から離れ、ねらいとする価値について考えを深めたり、自己の経験や体験と照らし合わせる場面の設定
●なかなか言語化できない児童・生徒への手立て、言語化の手段
●本時の課題の設定（児童主体か？教師主体か？）
●道徳的価値を、実生活に生かすことができる授業について

（２）道徳科における評価の在り方

①児童生徒による自己評価と教師による評価について

成果	○教師の効果的な問い返しにより，子どもの思考が深まっていたと思います。 ○年間を通して同じワークシートを使うことで児童の自己評価の意識が高まった。 ○ワークシートを活用し、ポートフォリオすることで、年間を通じた児童の考えや変容を見取ることができた。 ○板書を写真で残しておくことが効果的であった。

成果	○心情線の変化は、子どものその時間での変容を見取る上でも効果的だったと思う。 ○今年は、どちらの授業も子どもが書いたものが残っているので、そのようなワークシートやロイロノートを使って積み重ねていくことで、子どもの道徳性の変容や成長などを評価できると思う。 ○どちらの授業も自分の内面に向き合えていたように思う。 ○タブレット端末を活用することで、自分と他者の考えを比較しやすくなり、自己評価をしやすくなっていた。 ○ロイロノートでまとめを提出させたことで子どもは学びごとに振り返ることができ、前期や後期ごとに道徳のまとめをさせることで、教師側も子どもの変容を見取ることができた。 ○２つの授業を参観し、心情線にネームプレートを貼ったり、ロイロノートを活用する等、様々な評価の方法があることがわかった。学校や学年で共通したワークシート（自己評価シート）を使い、その記録を蓄積していくことにより、生徒の思考の変化や成長の過程を見取っていくことが大切だと感じた。 ○スムーズに意見交換や集約ができる等、ロイロノートの有用性がわかり、とても勉強になった。使うことが目的にならないように、一つのツールとして活用していきたい。 ○児童の自己評価を行うことによって、本時の振り返りや自分の考えの変容などを感じることができていた。 ○教師による評価もワークシートや授業観察だけではなく、授業後の板書などからも評価できていた。
課題	●単位時間だけでなく，大きく児童の実態を見とるためには，どのような方法が効果的なのかを検討していきたい。 ●児童のつぶやきを拾った結果の評価の仕方に課題がある。 ●ワークシートに書けない児童の見取りの充実が今後の課題。 ●ただ感想を書かせるだけでなく、その時間で気づいたこと、考えが変わったこと、なるほどと思った友だちの考えなどを振り返らせることで、自己評価につながると思う。 ●発達段階によるが、「自己評価シート」の活用もあるかと思う。 ●内面の変化に気づける工夫を日々為さねばならないと感じた。 ●個人での活動が長くなると、意見交流の時間が短くなったり、評価の時間が短くなってしまう。 ●生徒の評価をどのように見取っていくか。蓄積したワークシートから、どのような点に着目し、生徒自身の変容を捉えていくのか共通認識が必要である。自己評価の仕方についても学校としてよりよい方法を探っていく必要があると感じている。 ●振り返りにおいて児童生徒が自分の言葉で記述する時間を確保し、時間があれば交流までできると、他人の考えを知ることができ、自分の考えをより深められると思った。 ●フォームを活用し、自己評価の積み重ねができるのではないか。また、フォームの結果を全員で振り返る場面を設けるなど、他の意見をより目にすることで、自分を振り返ることができるのではないか。

○年間を通して同じワークシートの活用→自己評価の意識の高まり ○ポートフォリオ→年間を通じた変容の見取り、思考の変化や成長過程の見取り ○板書を写真で残しておくこと→評価への活用 ○ロイロノート→道徳性の変容や成長を評価、学びごとの振り返り、スムーズな意見交換や集約、自分と他者の考えを比較 ○心情線→単位時間での変容の見取り ●大きく児童・生徒の実態を見取る方法について ●つぶやきを拾った結果の評価 ●振り返りの工夫が自己評価につながる ●「自己評価シート」の活用 ●内面の変化に気づける工夫 ●個人での活動、全体・グループ・ペアでの活動のバランス ●自己評価の仕方について（学校としての共通認識） ●振り返りの交流の時間の確保 ●フォームの活用（自己評価の積み重ね、全員で振り返る場面の設定）

（３）保護者や地域の人材(教材)を活用した指導

成果	○コロナ禍の感染対策の点からも地域の方を招いた指導は控えた。授業参観で道徳の学習を見てもらったことで、子どもたちが道徳でどのようなことを学んでいるのか知ってもらえた。また学級通信で道徳の学びに家庭と共同して触れることができた。 ○コロナの状況もあり、保護者や地域の人材（教材）を活用した指導は、なかなか難しい時期でもあるが、すでにあるものを、誰であっても実践できるというしっかりとした基盤を整えていく時ではないかと感じている。 「きたものがたり」等を読み、地域と関連性のある人材や、価値のある教材を見いだしていくことの大切さを感じた。 ○ゲストティーチャーを呼んで LGBT の講演をしていただき、教科書を超えて性の多様性について考える機会を設けることができた。また、保護者への配信を行い、授業の様子を伝えることができた。
課題	●活用ができなかったです。課題です。 ●コロナ禍もあり、外部の方を招いての実践はなかなか難しいところもあると思う。 ●地域の教材活用には、新聞やニュースなどのチェックなどをして蓄積しておく必要がある。大変ですが。 ●北海道版道徳教材「きたものがたり」は、各校に道徳教材の一つとして浸透しているのであろうか。 ●保護者や地域の人材（教材）を活用した指導は、子どもの心に響くとても価値のあるものだと考えている。各校での実践例等を交流することや、協力してくださる地域の方々を一覧にして共有して見られると良い。 ●地域の人材を活用することは難しかった。空知教育センターの方で外部講師の選定をしてくださるような話を聞いたので、次年度以降活用していきたい。 ●現在の状況（コロナ）下では、なかなか人材の活用は難しいと思います。

○授業参観で道徳、学級通信の活用→家庭とのつながり ○ゲストティーチャーによる「LGBT」の講演 ●コロナ禍による難しさ ●誰にでも実践できるような基盤づくり ●新聞やニュースのチェックなど蓄積が必要 ●「きたものがたり」の活用 ●空知教育センター講師の活用

2　研究推進体制・方法等について

（研究会議、実践発表・「研究のまとめ」発刊による研究成果の還流・発信等）

成果	○実際の授業を参観させていただけたことで，子どもたちの温度感や一生懸命な姿を見ることができました。オンラインにも対応していただきありがとうございました。 ○実践の発表にむけた指導案検討、事後研ができ勉強になった。 ○なかなか集合できなかったが、リモート会議やメール等でのやりとりで指導案検討や授業の反省を交流できたことは、大変良かったと思う。 ○研究会議は状況に合わせて非対面で行うことが多かった。結果的に、各校の日課や移動時間の調整が不要となり、働き方改革の面でも有効であった。この形を継続していければよいと思う。 ○リモート会議が多くなっていましたが、充実した話し合いができていたと思います。 ○事前研はオンラインでできなかったが、事後研をオンラインで協議することができ大変勉強になりました。ありがとうございました。 ○尾崎先生、板垣先生の授業から、「自分でも実践してみよう」と思うことのできる良い刺激を受けました。授業を公開するための事前の連絡や日程調整等も細やかにして頂き感謝しています。 ○指導案検討を全員で行うことができた。 ○動画配信ではなく、実際に授業を参観することができたため、学級の雰囲気や子どもたちの交流の様子を感じることができた。 ○オンラインの普及もあって、授業の視聴や会議への参加など便利になっていると思います。 ○推進体制、方法は長年培っているものなので、よいのではないでしょうか。
課題	●コロナ禍なので仕方ないのですが、事前研・事後研集まってできると良かったです。 特に事前研は指導案上では見えない展開などもあるにで、先生方のアドバイスをもっといただける場になると思います。 ●１０名程度の会議とは言え、発言の頻度や機会などが少ないように思う。更に小グループに分けて建設的な話し合いを進められるような工夫が求められる。 ●授業を公開する先生は、事前、事後の準備も含め負担が大きいと感じます。授業実践を１つにする。授業者がその重みを背負うのではなく、みんなで協議しながらよりよい授業を創り上げていく。その際、より効果的な板書や発問等を模擬授業等で実施し、１つの授業をみんなで創り上げていけると良い。

滝川市は、これまで子どもたちの心に響き、自らの心・他者への心へ思いを寄せる道徳教育の充実を目的として本事業を立ち上げた。引き続き、次の２点について、工夫しながら、実践的な研究を推進していく。

①研究内容等の公開について

②研究会議について

・書面やオンラインなどによる様々な会議形式

③研究授業の参観について

・授業動画の配信を続けるとともに、当該校の許可のもと、研究員が研究授業を直接教室で参観できるような形を模索していく。

3　その他

各学校における道徳教育の充実に関わって

（「道徳科」の日常実践の充実、家庭や地域との連携、授業公開等など）

・道徳科の授業作りや，評価等の共通認識を学校で図っていきたいと思います。

・道徳の評価の在り方についての紙面提案

・山田貞二先生の授業動画での研修

・道徳推進教師による公開授業

・特にこれと言ったことをしていないのが現状です。教科書を中心に実践をしているところです。小学校１年生の担任なので、劇化や動作化なども取り入れたりしています。また、少しずつワークシートに書かせることも始めているところです。

・道徳研究会議の実態を適宜伝えることができた。特に、研究員間のツールや資料の共有物を自校にも紹介し、小樽市の「親子で学ぶ情報モラル教室」の資料などは保護者懇談や道徳の情報モラルの授業に役立てることができていた。

・板垣先生の授業では、心に響く動画を活用していた。一人一人の優れた実践や、学校で持っている資料や動画等を、滝川市全体で使うことができると、今以上に良い道徳の実践が可能になるのではないか。

・道徳の授業を学年団で分担して行っている。他の先生の授業を見ることで、交流もできている。

・本校（開西）では、担任だけではなく、学年団全員で授業を行っています。

☆授業の公開について

・保護者や地域の方々へ道徳科への理解を深めていただくためにも参観日（コスモスデーを含む）等を活用し、積極的に授業の公開を校内で呼びかけていただきたい。

☆資料等の共有について

・研究員間のツールや資料の共有について、成果があった。（情報モラル資料）

・一人一人の優れた実践や資料・動画等を共有していきたい。

≪参考・引用文献≫

- 小学校学習指導要領解説　総則編　文部科学省
- 中学校学習指導要領解説　総則編　文部科学省
- 小学校学習指導要領　解説―特別の教科　道徳―　文部科学省
- 中学校学習指導要領　解説―特別の教科　道徳―　文部科学省
- 平成２７年度小・中学校教育課程編成の手引　北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 平成２８年度小・中学校教育課程編成の手引　北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 平成２９年度小・中学校教育課程編成の手引　北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 平成 30・31 年度小・中学校教育課程編成の手引　北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 令和２年度　小・中学校教育課程編成の手引　北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 令和３年度　小・中学校教育課程編成の手引　北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 「特別の教科　道徳」の充実に向けて　北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 「特別の教科　道徳」の評価について　北海道教育庁学校教育局義務教育課
- 新学習指導要領を踏まえた道徳キーワード　光村図書出版株式会社
- 道徳科「深い学び」のための内容項目ハンドブック　日本文教出版
- どうとくのひろば　日本文教出版
- 平成２２年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 平成２３年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 平成２４年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 平成２５年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 平成２６年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 平成２７年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 平成２８年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 平成２９年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 平成３０年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 令和　元年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 令和　２年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会
- 令和　３年度滝川市道徳教育推進事業　実践報告書　滝川市教育委員会

なかなおりマーク

滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

令和４年度　滝川市道徳教育推進事業　実践報告書

「自分のよりよい生き方についての考えを深める道徳科」
～主体的・協働的な学習を通して～

発　行　　令和５年３月
発行者　　滝川市教育委員会・滝川市道徳教育研究会議

所在地　　〒073-8686　滝川市大町１丁目２番 15 号
滝川市教育委員会　教育総務課
TEL 0125-28-8042　FAX 0125-24-1024